



口は命の入り口、心の出口



口からご飯を食べることは栄養を取り入れるだけでなく、食べ物の味を楽しむものです。また、話をすることは自分の状態を伝え、情報交換をするために欠かせないことです。痛くて食べられない、話すのがつらいという状態は生活の質の低下につながります。歯医者さんに相談しましょう。



ひどくなる前の対応・予防が大事

「まだ大丈夫」とつらさを我慢しても、良いことは一つもありません。我慢できなくなってから頼るより、軽度の段階での先手・先手の対応が重要です。お口の問題も早めに歯科にご相談いただくと、治療の負担が少ないですし、できることが多いです。



負担少なく歯科で出来ること



「歯科治療は時間がかかって大変」は誤解です。歯科では治療ではなく負担の少ないケアで、お口の困りごとを改善する方法もたくさんあります。ぜひ歯科を上手に活用ください。



入院していて歯医者に通えない

病院に入院しているので、歯医者さんに行くことができない方のために、歯科訪問診療を行うことができます。お近くの歯科医師会の口腔管理推進室へご相談ください。



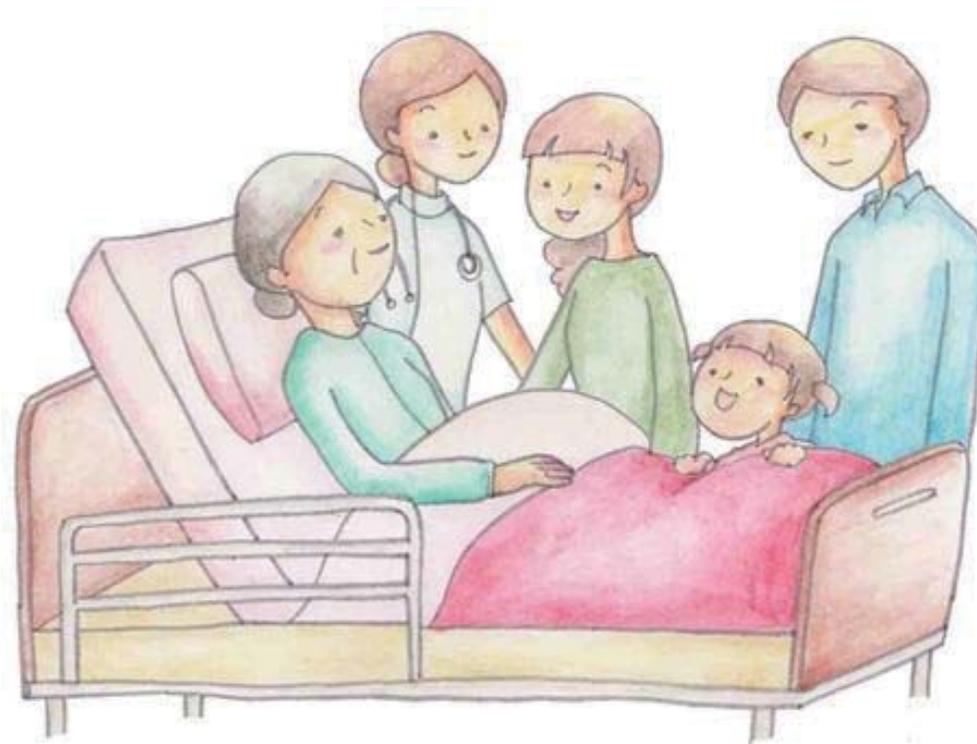
お住いの歯科医師会の連絡先について、詳しくはWEBで！

あなたの地域の福岡県歯科医師会



(令和7年12月)

緩和ケアを受けられる方へ



公益社団法人 福岡県歯科医師会



〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名1丁目12番43号
TEL 092-771-3531

緩和ケアとは

療養中の患者さんの困りごと・苦痛を和らげ、取り除く支援をすることで、患者さんご家族にとって、自分らしい生活を送れるようにするためのお手伝いをすることです。



緩和ケアと歯科の接点

療養中の患者さんは、治療の副作用や体力の低下、今まで通りのお口の管理が難しくなるなど、さまざまな理由でお口の困りごとが起きやすくなることが知られています。

唾液の分泌が下がり、口が乾きやすくなります。不快だけでなく、食事や会話を妨げ、感染のリスクを上げる原因となります。

歯科受診の機会が減り虫歯や歯周病の悪化、入れ歯が合わなくなるなど、歯科的なトラブルが起きやすくなり、お口の痛みのもとになります。

体力が落ちると、感染のリスクが上がります。口の汚れはカンジダ症など口の感染症だけでなく、肺炎などの全身感染症の一因ともなります。

お口の機能である「おいしく食べること」「スムーズに会話をして良好にコミュニケーションをとること」は、療養生活を豊かに送るための重要な柱です。

歯科はお口の困りごとを、患者さんのご負担にならない範囲のお手伝いで和らげることができます。

こんな悩み、歯医者さんにご相談ください！

●口の中に痛みがある、食べづらい

歯茎が腫れた、虫歯がしみる、入れ歯が合わなくなって噛むと痛む、口内炎ができてなかなか治らないなど、**歯科的な問題によるお口の痛みは、痛み止めの薬だけでは解決できないことがあります。** 応急的な歯科治療でも、痛みを和らげることができます。



●掃除が出来なくて口の中が汚れている

お口の汚れが多いと、お口の痛みのもとになったり、味覚を邪魔したり、口臭のもとになるなどの問題を引き起こすだけでなく、肺炎など全身感染症のリスクにもなります。**口腔のケアを受けて、さっぱりとした綺麗なお口で過ごしましょう。**



●口の中が乾燥する、ネバネバする

療養中の患者さんにとっても多い問題で、口の中の乾燥（乾くだけでなく、ネバネバ・ベタベタするなどの症状も）は、それ自体が不快で会話や食事を邪魔するだけでなく、感染症のリスクを上げたり、粘膜を弱くして義歯の痛みを引き起こしたり口内炎リスクを上げてしまいます。**口の中を潤す色々な方法を相談できます。**



●その他 お口に関するお困りごと

歯が無くなって見た目が気になる、お口の中に食べられない理由があるなど、**お口の困りごとは、ぜひ何でも歯医者さんに相談してください。**

